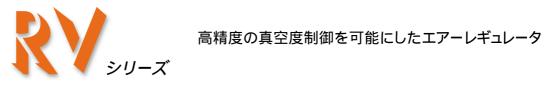


FUJIKURA COMPOSITES

精密真空減圧弁







精密真空減圧弁

特長

高精度制御

感度 0.13kPa(1mmHg) 繰り返し再現性 0.13kPa (±1mmHg)以内という高精度の真空度制御が可能です。

優れた圧力特性

1次圧変動に対して設定圧の変動 1.3kPa(10mmHg) 以内です。

大流量タイプ

流量 270 /min(normal)まで流せますので、大流量の 用途にも対応できます。

応答性良好

2次側の圧力変動に対して敏感に応答します。

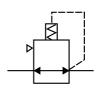
仕 様

_				
項目	型式	RV•S-1-2	RV-1-2	RV-1-3
使 用 流 体		空気(真空)		
圧力設定範囲	kPa(mmHg)	-1.3 ~ -100(-10 ~ -750)		
感 度	kPa(mmHg)	0.13(1)		
繰り返し再現性	kPa(mmHg)	± 0.13(± 1) 以内		
使用温度範囲		5 ~ 60		
流量	/min(normal)	200	270	
配管接続口径		Rc1/4 Rc3/8		
ブラケット		標準装備		
質 量	kg	0.5 0.65		

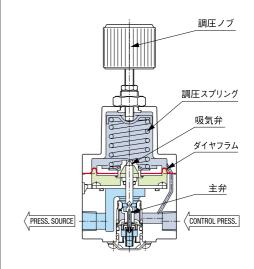
型式表示方法 RV 1 基本形式 RV·S RV (注)RVのみ適用



JIS 記号



内部構造と動作原理



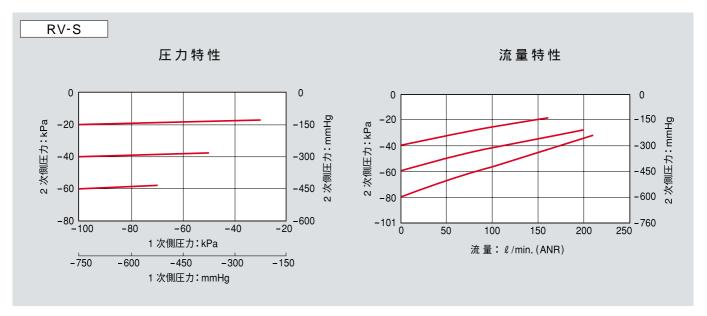
RVは平衡形供給弁を利用しており、調圧ノブを時計方向に回しますと主弁が開き、2次側の真空圧が高くなります。

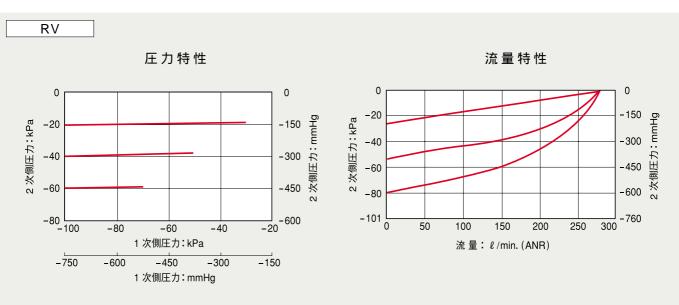
2次側の真空圧はダイヤフラムに作用し、調圧ス プリングとバランスした所で設定圧となります。

2次側の真空圧が設定圧より高くなりますと、 ダイヤフラムの吸引力が大きくなり、上向き の力が働き吸気弁を開いて設定圧に戻ります。

2次側の真空圧が設定圧より低くなりますと、 ダイヤフラムの吸引力が小さくなり、下向き の力が働き主弁を開いて設定圧に戻ります。









取扱い上の注意事項

一般注意事項

- ① 真空レギュレータに配管する前に、必ず配管内のフラッシングを 十分に行ってください。
- ② 使用流体は空気(真空)を使用してください。
- ③ 粉塵や水分、油分が多く含まれる環境下で使用される場合は、 カバーなどで真空レギュレータへの侵入を防いでください。
- ④ 製品には、外部より無理な力がかからないようにしてください。

配管・取付け

- ① 本体底面の「PRESS. SOURCE」表示が真空ポンプ側になるように配管してください。
 - ▲「PRESS. SOURCE」側に正圧をかけると、破損する恐れがありますので注意して下さい。
- ② 真空レギュレータは使用する真空ポンプの能力により性能が左右 されますので、十分な容量の真空ポンプを選定するか真空ポンプ 側に容量タンクを設置してください。

③ 真空レギュレータに管、継手類をねじ込む場合は、下記の適正締付けトルクで締付けてください。

接続ねじ	締付けトルク N・m
Rc1/4	11.6 ~ 13.4
Rc3/8	21.6 ~ 23.5

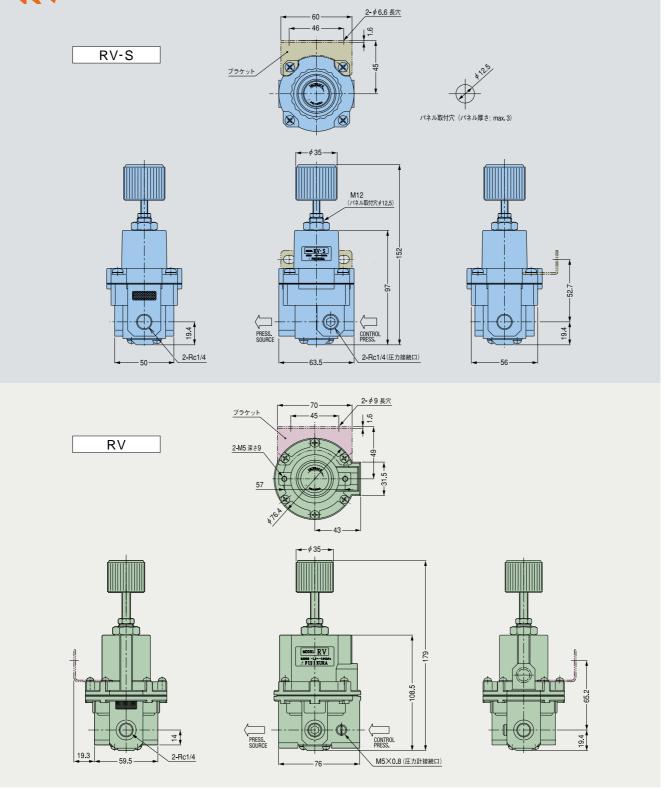
④ ブラケットは本体を固定している2本のなべ小ねじ(RVは3本) を兼用して本体に取付けてください。なべ小ねじの適正締付け トルクは、1.3N・mです。

調圧

- ① 調圧は、真空レギュレータの圧力計接続口に真空計を接続して 行ってください。
 - ▲ 型式: RV-1-2及びRV-1-3の配管接続口以外の2ヶ所の接続口 (Rc1/4)は1次側(真空ポンプ側)の圧力計接続口となります。
- ② 調圧は、ロックナットを十分に緩めた状態で行ってください。 調圧ノブを右回転(時計廻り)させると減圧(大気圧 真空圧)し、 左回転(反時計廻り)させると増圧(真空圧 大気圧)します。
- 本品はエア機器専用の為、医療機器には使用しないで下さい。

FUJIKURA PRECISION AIR REGULATOR







샱 藤倉ゴム工業株式会社

制御機器 D 〒 330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋 1-840(大宮工場内) ☎(048)663-1820(直通)

FAX (048)663-8630

社 〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-20 本 ☎ (03)3490-2111 (代表)

FAX (03)3490-2170

制御機器事業部 ホームページアドレス URL http://www.fujikurarubber.com/ced/

E-mail cegs@fujikurarubber.com

代理店